

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600227		
法人名	株式会社 東洋測量設計		
事業所名	グループホーム ふれあいの里たちばな		
所在地	佐賀県武雄市橘町大字片白346番地		
自己評価作成日	平成 30年 3月 6日	評価結果市町村受理日	平成30年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 30年 3月 28日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地にて解放感もあり、ゆったり過ごせそうですし、古民家風で自宅に近いイメージもあり入居者様も落ち着いて慣れていかれるのも早い感じでした。職員も働きやすいとの言葉もあり入居者様と楽しく生活しています。今後も入居者様の楽しみにもっと寄り添った生活が出来るように支援していきたいと思っています。この場所、この人数、この職員だからこそ出来る事が必ずあるとの強い気持ちを持っています。内外の研修の継続、月1回の職員会議では職員さん一人一人が意見を語りチームワークがこの1年とても良いものとなっています。今後も入居者様、職員の幸せを積み重ねていきたいと意欲を持っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県南部の田園地帯に位置する古民家を改修しており、開設より12年経過しており、この4月に同じ敷地内に新築したホームに移転する予定である。また、運営推進会議を日曜日に開催することで家族の参加率が向上するなどの工夫をしている。職員は内部・外部の研修に参加し勉強することで職員の質の向上に努めている。管理者を中心に行けるところから1歩ずつ実践し、理念に基づいたケアを積み重ねているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームに理念が掲示されている。随時申し送り時、職員会議内で思い起こしを図っている。職員一人一人も質の高い介護に繋げていくように向上を目指している。	玄関やフロアに理念が掲示され、管理者が職員会議や申し送りの際に、理念を想起するようにしている。理念に基づくケアができるよう、できることから実践し、積み重ねを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域から毎年のように食事会のお誘いがあり事業所の入居者様、職員を知って頂いている。事業所として更なる深いかかわりを持ち日常的なものとなるよう努力は必要。今回1年の運営推進会議が終わりお昼を入居者様、ご家族様と共に計画している	公民館でのふれあい昼食会や老人会からの招待があり、参加している。また、地域の清掃活動に参加したり、ご近所からの野菜の差し入れなどの交流もある。しかし、以前あった小学生やボランティアによる訪問などの交流は減少傾向にある。	地域住民が参加できるホーム行事の開催やボランティアの受け入れなど、ホームに足を運ぶ機会づくりをすることで、さらに交流が深まることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の域までは達していません。認知症の勉強会は地区で開かれている様子。当ホームの取り組みを知っていただく為に地域の方々が気軽に尋ねて下さるようにもっと関わりを深める事が必要と思う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一年定期的に開くことができ、ご家族様の出席、入居者様の出席、職員の出席、訪問相談員様、老人クラブ様の出席が得られ事業所を知って頂き報告、議事録を通し意見を頂きサービス向上を図れました。	区長や民生委員、入居者・家族の参加の基、2ヶ月に1回開催している。年1回は参加しやすい日曜日に開催することで、家族の参加が増えている。議事録も大きな字でわかりやすくまとめており、欠席者には送付し、職員にも回覧するなど、内容の周知に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の折、又相談、用事等で訪問し協力を頂いている	ホームへの入居相談や、随時、状況報告・相談を行っており、協力体制はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修(内・外)を行っている。又当ホームでも一時的にベット手摺にて拘束期間もありご家族様共密に話し合い理解をお願いし職員間共カンファレンスを行い改善に取り組みました。	身体拘束と理解しないまま四点柵をしていたが指摘を受けてすぐに解除しており、現在身体拘束はしていない。昼間の玄関の施錠もしていない。研修に参加するなど身体拘束について勉強する機会を設けているが、職員への周知は十分とはいえない。	研修会参加後の他職員への内容周知をするなど、さらなる身体拘束についての職員理解が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修(内・外)を通し学ぶ機会がある。事業所内でも言葉の強さが見られる時はその場で注意していますし職員会議でも随時触れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修(外)を通し学び、研修報告、資料一式を回覧し押印している。ホームでも利用されている方もありますが、もっと浸透した知識が持てるよう更なる学びが必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はホーム長が対応し入居者様、ご家族様と話しをされ、不安なことなどを聞くように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお話をしたりしてご意見を頂いています。玄関にはアンケート用紙や意見箱の設置を行い声を頂いています。	関には意見箱を置いている。面会時の状況報告したり、手紙で生活状況を伝えるなど、入居者の情報共有を図ることで、意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。出た意見は職員間で検討し、できるだけ反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が職員の意見を随時聞く機会はありません。随時職員会議で出た事柄を代表者に伝えるのが精一杯です。	管理者が、職員会議や申し送りなど、日常的に職員の意見や要望を聞いている。出た意見は必要に応じて代表者にも相談・検討し、できるだけ反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員一人一人を知る機会が見られていません。もっと声を拾い上げ下されば職員一人一人が働く意欲が出るのではないかと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、研修は実践者研修、管理者研修のみ認めると話されました。ホームでは有料、無料を含めホーム長の考えで全職員が研修に行けるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の加入が法人ではなく、個人加入し参加。研修に行きついでに研修報告、資料を回覧。研修時に友達を増やす事を勧めしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の話を頂いたとき初回面接に行きご本人様とお会いし話を伺っています。顔見知りになり何でも話して頂ける雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様共ゆっくりお話しをし、困っている事をお聞きしてより良い関係性を築けるように努めています。ホームからのお願いがあれば伝え協力をお願いし関係性を深めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様が何を望んでおられるのか見極めが出来るように支援に努めています。新たなサービスが必要と思われる時は相談し対応。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の立場や気持ちに寄り添い傾聴し尊重出来るよう努力している。又ご本人様が出来る事はして頂き(職員も一緒に)暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様との関係性を維持して頂き絆が途切れる事の無い様に努めています。又定期的に状況報告したり面会時が楽しい一時となったり出来るように居室へご案内しゆっくりお話しをして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しんできたもの、大切にしているものが維持できるように努めている。友人との交流を楽しんでもらえるようにご家族様の助けを得ながら外出支援して頂いています。	近隣からの入居が多く、近所の馴染みの人の訪問がある。居室はゆったりと広く、居室へと誘導してゆっくり話せるようにしている。また、近所へのドライブや馴染みの美容院の継続など、馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話という面では交流が難しいですがレクリエーション又洗濯物置、食器拭きを入居者様に手伝って頂き関わりが持てるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御兄弟様、御姉妹様との意見との食い違いにてグループホームから別の施設へ移られる事がありました。いつでもご相談して下さいとお伝えし、関係性を維持しています。又死亡退去もありましたがお手紙を通し交流を持ってました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様との話し合いで得られた情報と職員さんからの聞き取りを日々行い何を望まれているかを見極めるように努めています。	入居者や家族との日常の関わりの中で、希望や意向を把握している。意見表出が困難な場合、表情の変化で汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様との話しや日々の生活の中、一人一人の話に傾聴しながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、メンタルチェックや身体面の観察を行い現状の把握に努めている。入床、起床も各入居者様に合わせ対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にご本人様から聞き取りを行い意見を頂いています。ご家族様にも訪問時や電話にて意見を頂くようにしています。職員さん達にも聞き取りをお願いしたりプラン内容に意見を頂いています。さらにもっとカンファレンスを行い一人一人に沿ったものとなるよう努力は必要。	入居者・家族等への聞き取りを行い、担当者会議を経て、介護計画を作成し、随時モニタリングを行い、定期的に評価を行っている。介護計画は日々の記録の見出しに貼り、ケアに活かし、記録するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を通し又申し送りノートを利用し情報共有に努め介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や意向に応じられるようその状況、ニーズに合わせ支援できるよう努力している。急な外出時でも柔軟に対応支援している。更に入居者の趣味に関してボランティアを募ったりもして行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は中々出来ていない。もっと暮らしを楽しむ事が出来るように支援していかなければいけないと感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が無い方にはホームに来て頂いている病院の情報をお伝えしてはいますが、自由に選択して頂いている。受診、往診、上申し不安のない状態にしています。	かかりつけ医や協力医は自由に選択することができる。かかりつけ医とも連携しているが24時間体制ではないため、緊急時の対応については事前に家族と話し合い、必要な医療を受けることができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内にはナースはいません。デイサービス内にナースがいますので協力をお願いしたりはしています。グループホーム内にナースがいてもっと対応がスムーズに出来るような体制作りが必要。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカー、ナースと連絡を密にし入居者様の入院までの経過、生活状況をサマリーを通して伝えたりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも話はしていますが、身体状況の変化にて(Drの話も含め)随時ご本人様と話しを持ち職員とカンファレンスを行いチームで取り組むよう努力しています。又ホームでの看取りとなった場合Dr共話し合いを持ちご家族様の意向を聞き署名、印頂き(2部)取り組んでいます。	重度化や終末期については、入居時や状況に応じて家族と方針を決めている。必要に応じて主治医からの説明を受けることができ、医療機関、家族、ホームがチームで支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習受講していますが、頻度は少なく実践力となる仕方で全職員が備える事が出来るよう取り組みたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルは作成。避難訓練を行う事で見つけていますが何回も重ねるごとに体が覚えていくように今後も取り組んでいく。	年1回の自主訓練のみで、消防署への届出話されていない。火災以外の災害対策についても十分とはいえない。	年2回以上の火災やその他災害を想定した訓練実施と、消防署への届出をすること、定期的に消防署の立会を依頼することで専門的なアドバイスを受ける機会づくりが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	無理強いする事が無いよう気分を害されないよう対応に心がけている。職員各々は努力しているが尚いっそう言葉使い、声かけを振り返り良いケアが出来るように努めている。	言葉遣いについては、職員会議などで周知を図るとともに、日々のケアの中でお互いに注意し合っている。記録は事務室で保管し、食事や排泄の記録は所定の場所で、入居者等の目に触れないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の服装や髪形等好みの物や形など選んで頂いたり決めてもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	とかく業務に流されがちでお一人様お一人様のペースに合わせているとは100%言えないが努力している。入床、起床などはお一人様お一人様に寄り添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んで頂くかどちらが良いか選択して頂く方法で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食品を提供したりしている。ミキサー食にも対応、カロリー摂取が満たせるよう努めているが食材、質の問題もある。片付けなど可能な方はして頂いている。	食事は入居者の好み、体調に配慮し提供している。また、買い物や調理、下膳の手伝いを入居者と一緒に行っている。クリスマスや正月など季節の食事やお花見弁当など、食事を楽しむことのできる支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック表を通して入居者様のご状態を確認している。量だけでなく栄養のバランスにも見直しを図り水分量が特に少ない方は摂取量をチェックし個々に目配りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは行っているが一人一人の状態の応じたケアや確実に出来ているかは不十分と思われる。特に男性の方の自立した方は難しい状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様のご様子を見ながら介助。排泄チェック表にてリズムを把握。日中・夜間オムツ使用0。昼間布パンツ対応試み中。トイレで排泄、出来る喜び(入居者様・職員)を得ています。	排泄に関する勉強会を開き、各人の排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。できるだけおむつに頼らない支援を行い、現在、日中のおむつ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて把握。緩下剤の処方。浣腸対応にて便秘に注意しています。それと共に食物繊維の提供、運動の実施にて排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で決めている部分も少なくないが、可能な限りご本人様の気持ちを尊重し気持ち良く入って気持ち良く上がって頂けるように支援に努めています。	週3回入浴しており、希望に応じて順番や時間など柔軟に対応している。状況に応じては、シャワー浴や清拭など、清潔を保つようにしている。入浴時には会話や歌を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後又眠気が見られる時は随時介助し休んで頂いています。夜も遅く休まれる方にはそれまでの時間共に過ごし眠れなくなったご様子の時入床介助に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノート、お薬のしおり等目を通し把握。しかしお薬のセットをする職員、関わりが少ない職員との違いは大きい。全ての職員がしっかり把握していくことが大切と感じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換が図れるようにお好きな飲み物(コーヒー、ノンアルコールビール等)を提供。冬場は天候も良くなく外出など特に少なくなるが、1対1の外出や時折りの食事を兼ねたドライブ実施。引き続き楽しみの提供を考えていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の対応で外出が多い方もいらっしゃいます。又居室担当者が時間を取り外出支援を図るよう努めています。買い物と一緒に付いて来て頂いたり、散髪に行ったり支援に努めていますがもっと回数を多くしていく必要は感じています。	買物やドライブ、花見などの外出をしている。また、散歩や日光浴をするなど、日常的に外に出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ジュース代をお手元にお持ちの方、お小遣いを預けておられる方のご希望をお聞きし、楽しみの為にお金を使えるように支援している。又ご家族様にも外出の予定の時はお金を使わせて頂く事をご了承頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の電話番号を紙に書きご存知の方は適宜電話で話して頂いています。かかってきた電話に代わって頂きお話をされることもあります。ここ最近手紙は出していませんがまた再開したいと考えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を大切に家庭的な雰囲気の中で過ごされています。季節の花を飾ったり壁飾りを工夫したりして季節感を大切にしている。	民家改修型のホームで、馴染みやすい環境である。季節感のある壁飾りや写真を飾り、落ち着いた雰囲気、入居者が生活しやすいよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様が居たい場所に居て歌を唄ってみたり折り紙を楽しんだりCDを聞いたり自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真、ご本人様の写真を飾ったり、ぬいぐるみを置いたり落ち着いた居室になるように努めています。	各居室はそれぞれの形状、広さがある。持ち込みは自由にすることができ、馴染みの物を持ち込むことができる。また、家具などの配置についても、入居者の状況に合わせて本人・家族と相談しながら安全に過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはそれぞれ花の名前を付けたり浴室、トイレの表示も分かりやすくしている。動線には手すりが設置。古民家の作りで段差、のぼり、下りはあるものの安全に生活できるように支援工夫している。		